



データ分析や情報通信技術、  
フィールドワークを結びつけた  
新しい学びが始まります。

工藤 周平教授

物事の本質を見抜くための思考訓練、  
ロジックの組立方法などを  
知ることは大事。

浅沼 大樹教授

新聞やニュースの報道を鵜呑みにしない。  
本当かどうか検証する手法を身につけて。

渡邊 壽大助教

## Talk Talk

### 教員

経営学部  
情報マネジメント学科  
工藤 周平教授

### 教員

経営学部  
情報マネジメント学科  
渡邊 壽大助教

### 教員

経営学部  
情報マネジメント学科  
浅沼 大樹教授

[工藤] いよいよ情報マネジメント学科がスタートしました。本学科で学ぶ面白さはどんな点でしょうか。

[浅沼] 現代社会は良くも悪くもICTなしには回っていきません。教育もビジネスも同様です。拡大し続けるフロンティアに触れて、知的好奇心や問題意識を刺激して、学ぶことそのものへ興味を持てるようになるころだと思います。

[渡邊] データを用いることで、現実にはすることのできない実験が可能となります。社会実験にはお金も人もたくさん必要ですが、データ分析手法を用いれば、学生であっても壮大な実験ができます。授業で分析手法を学んで、学生自身でできることが増えていくというのは面白いと思いますね。

[工藤] 研究室の外に出て、実際に地域が抱える問題と向き合いながら、データ分析や情報通信技術の活用について、実践的に学べるという点も他大学にはない魅力と言えますね。少人数という点も学びやすいのではないのでしょうか。

[渡邊] そうですね。学科定員は1学年45名と小規模です。教員との距離も近いことから、教員と学生が関わる時間も多くなるので、共同研究を一緒に行い、互いに学んでいけるような環境をつくりたいです。

[浅沼] 学ぶことは楽しいと実感し、知的好奇心に目覚めてほしいので、そのために、できるだけ想像力の範囲を広げられるような授業展開をします。一緒に頑張っていきましょう。

[工藤] 理論と実践の両面から学び、ビジネス、情報通信技術、データ分析の知識を融合させて、ビジネスや社会に新しいシステムと価値を提案できる人材を育てたいですね。

## クローズアップ研究室 🔍



地域の活性化を  
資源の循環という点から  
考察、実践していきます。

地域の経済循環について  
理論と実践の双方から研究

### 地域資源循環研究室

浅沼 大樹 教授 [博士(経済学)]

本研究室の面白さは、地元についてよく知ることができる点です。日本中いろいろなところで地方経済は衰退していますが、地元の経済がどのように回っていて、どこに強みと弱みがあるのかしっかり見極めることができれば、状況は少しずつ変わるのではないかと思います。理論的な勉強はテキストを読んだり、データを読み解く練習をしたりします。実践については、今後、地域の方々と連携しながら商品やサービスについて学び、生産や販売の現場にも関わりたいと思っています。学生には、自分が住んでいる地域に興味を持つこと、論理をベースに考えること、文章できちんと表現すること、学内外に関わらず多世代の方々とは交流すること、そして自分にも何かできると実感することを身につけてほしいです。